

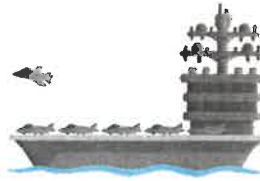
1 横須賀市内の原子力を扱う施設と、その防災対策

横須賀市内には、原子力発電所で使うウラン燃料などを作る燃料加工工場と、原子力空母や原子力潜水艦などの原子力艦船が寄港するアメリカ海軍の基地があります。



原子力発電用燃料

の
加工工場



アメリカ海軍基地

の
原子力艦船

横須賀市役所は、皆様の安全のために、神奈川県や国(原子力規制庁)、工場やアメリカ海軍と協力して、工場や原子力艦の周りの空気や海水などを調べて、工場や原子力艦から、体に浴びると健康に影響がでる場合がある放射線が漏れていないかを、24時間監視しています。

国や神奈川県は、放射線測定器(モニタリングポスト)で測った放射線の数値をまとめて、インターネットなどで公開しています。

港では、ボートを使って、原子力艦の周りの海水や海底の放射性物質を調べます。

●原子力艦用モニタリングポスト
○工場用モニタリングポスト
放射線測定器(モニタリングポスト)で、工場や原子力艦から出る放射線の量を24時間調べています。

市役所は、原子力災害が起きたときは、災害対策本部を設置して、皆さんの安全対策について、話し合います。

オフサイトセンターとは、災害の予防や対策を行うところです。ここには、専用の電話やファックス、機材などがあり、原子力防災の専門の職員がいます。事故が起きたときには、国や県、市、工場の職員などが集まって、防災活動に取り組みます。

お米、野菜、牛乳などに含まれている放射性物質の種類や量も、定期的に調べています。

市役所やオフサイトセンター、工場では、持ち運びができる放射線測定器を用意しています。